

# 安全AIソリューション 簡易操作手順書

株式会社MetaMoJi  
2026年4月



MetaMoJi

# 目次

1. 安全AIソリューション概要
  1. 安全AIソリューションとは
  2. 使用するデータの種類
2. 安全AIソリューションの起動
3. 公開データの利用
  1. インタラクティブモードとは
  2. インタラクティブモード操作例
  3. 自動モードとは
  4. 自動モード操作例
4. 自社データの利用
  1. 自社データ利用の概要
  2. 自社データ整備の流れ
  3. インタラクティブモードとは
  4. 自社データ利用時のインタラクティブモード操作例
  5. 自動モードとは
  6. 自社データ利用時の自動モード操作例
  7. 自社データ利用時の固有の機能
5. ワークシート
  1. ワークシートとは
  2. ワークシートへの転記方法
  3. ワークシートの機能

付録

# 1. 安全AIソリューション概要

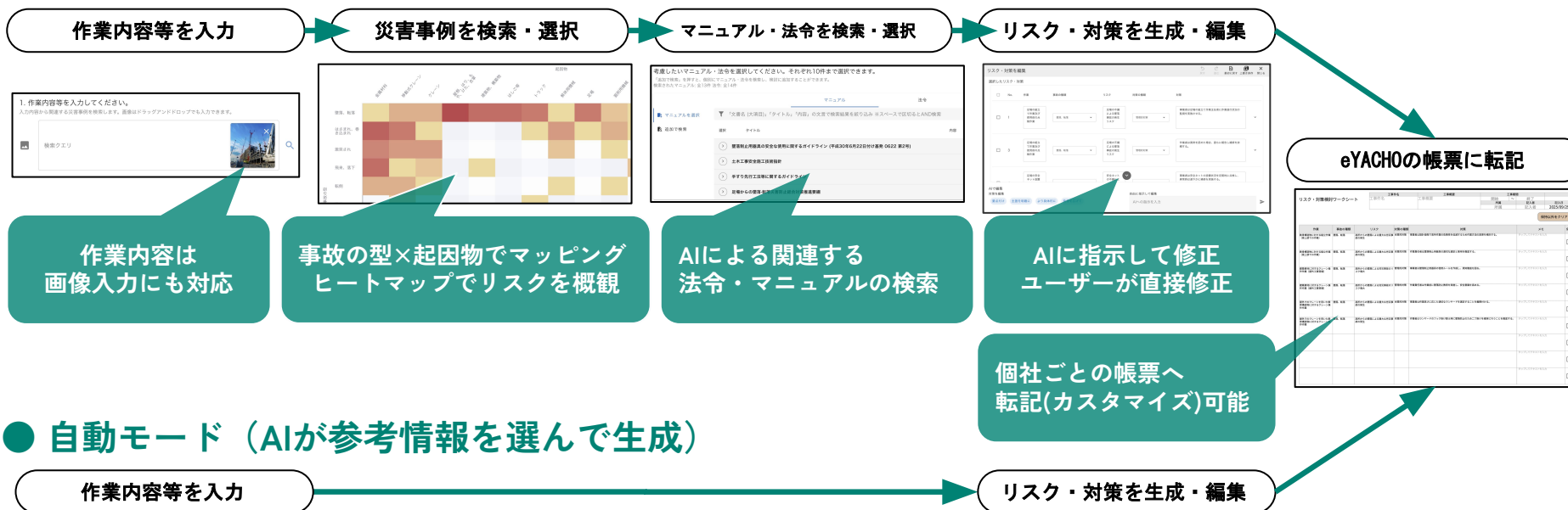
# 1.1. 安全AIソリューションとは

安全AIソリューションとは、建設業の作業内容を入力すると、関連する参考情報を基に作業のリスクや対策を生成し、リスクアセスメントを支援するeYACHO/GEMBA Note のパッケージです。

安全AIソリューションでは2つのモードをご使用いただけます。

- **インタラクティブモード**：ユーザーが選択した災害事例やマニュアル・法令を基にリスク・対策を生成
- **自動モード**：AIが自動的に選択した災害事例やマニュアル・法令を基にリスク・対策を生成

## ● インタラクティブモード（自分で参考情報を選んで生成）

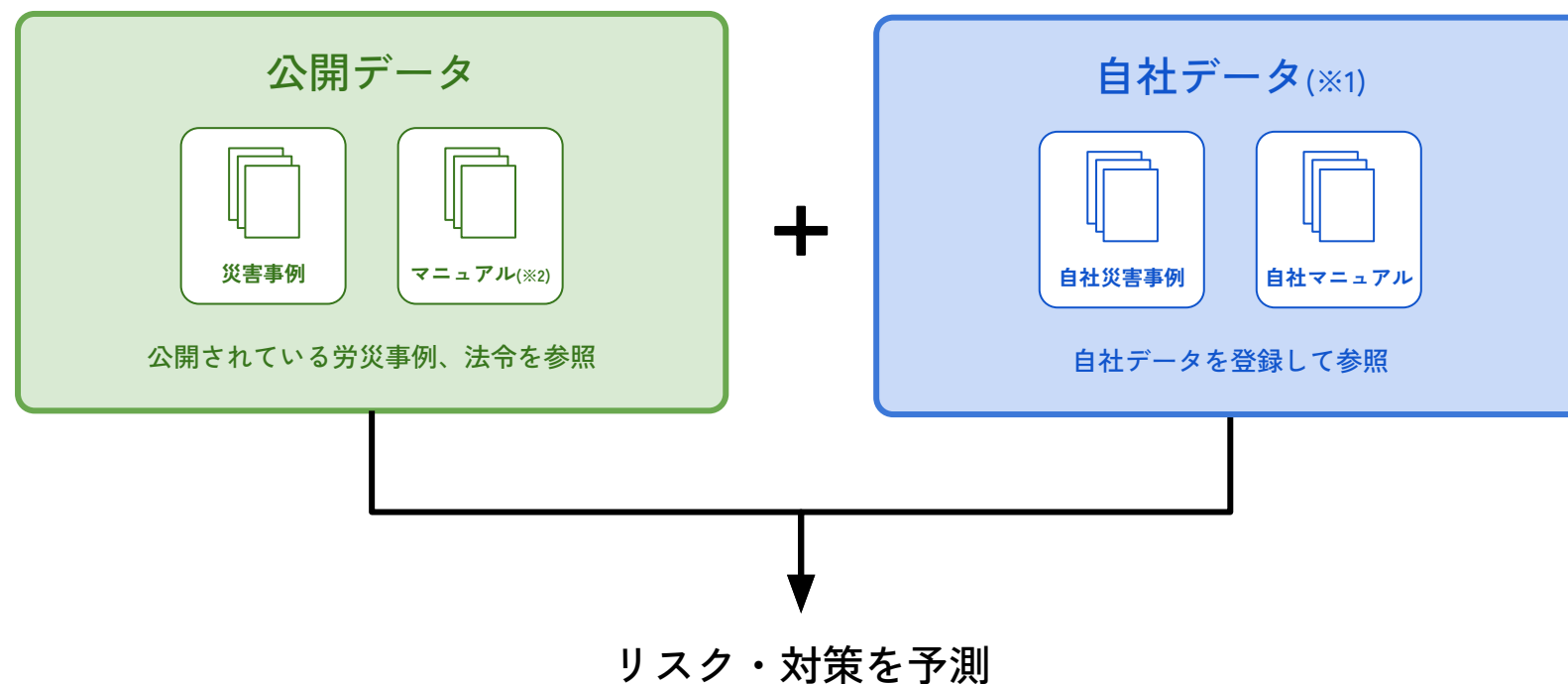


※ スタンダード版以上でご利用いただけます。

## 1.2. 使用するデータの種類

安全AIソリューションでは、公開データに加え、自社データ(※1)を利用してリスク・対策を生成することができます。

自社データを登録した場合、公開データと自社データを併用して災害事例やマニュアル・法令を参照し、リスク・対策を予測できます。



※1 スタンダード版以上のご契約に加え、公開データ版・自社データ版のご利用にはそれぞれ別途のご契約が必要です。

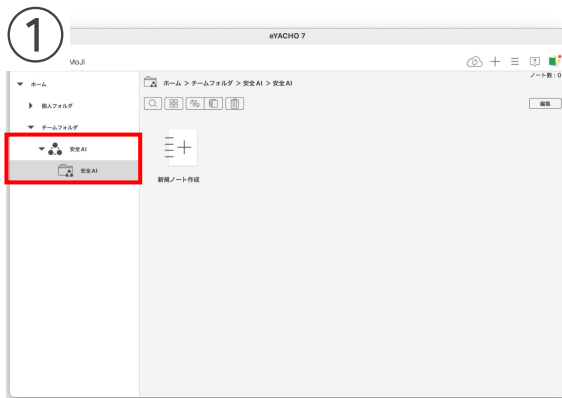
自社データを使用した操作手順は 4. [自社データの利用](#) を参照ください。自社データを利用するには事前のデータ整備が必要です。

※2 安全関連法令 19 種を参照 (2026年3月現在)

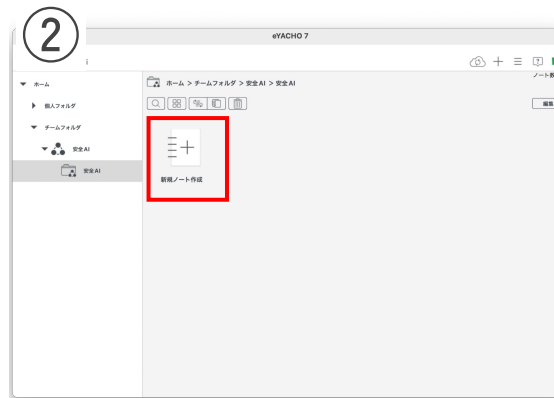
## 2. 安全AIソリューションの起動

## 2. 安全AIソリューションの起動

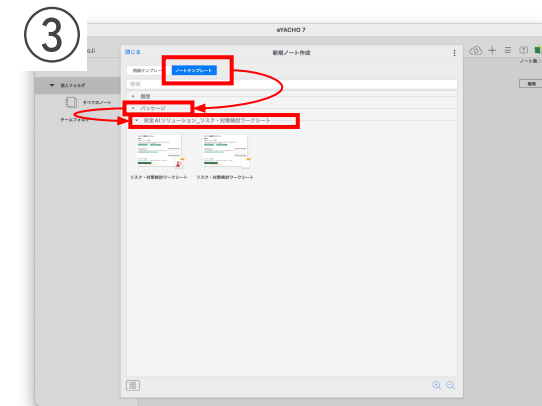
安全AIソリューションは、eYACHO/GEMBA Note の リスク・対策検討ワークシート ノートから起動します。



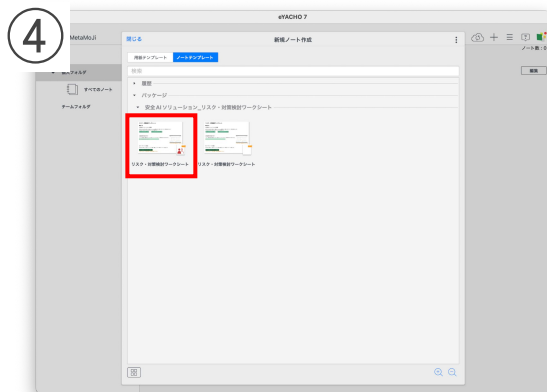
1 eYACHO/GEMBA Noteにログインし、任意のフォルダを開きます。ここでは、あらかじめ作成しておいた「安全AI」チームフォルダ(※)を開きます。



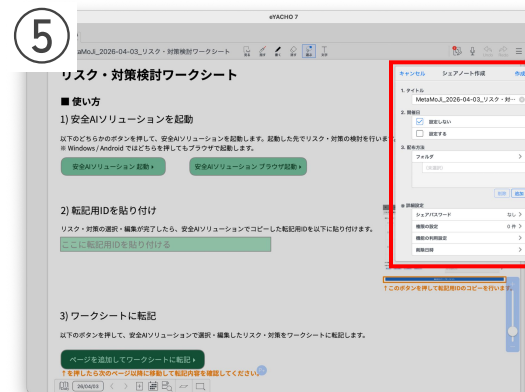
2 新規ノート作成をタップします。



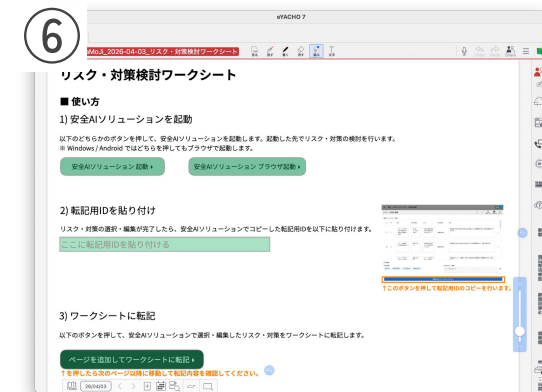
3 ノートテンプレート > パッケージ > 安全AIソリューション\_リスク・対策検討ワークシートを選択します。



4 「リスク・対策検討ワークシート」をタップします。ここではシェアノート版を選択します。



5 シェアノート作成ダイアログが表示されますので、各設定を行い、作成ボタンをタップします。

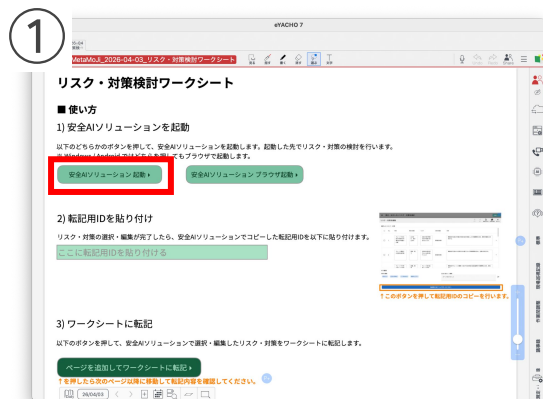


6 「リスク・対策検討ワークシート」ノートが新規作成されます。

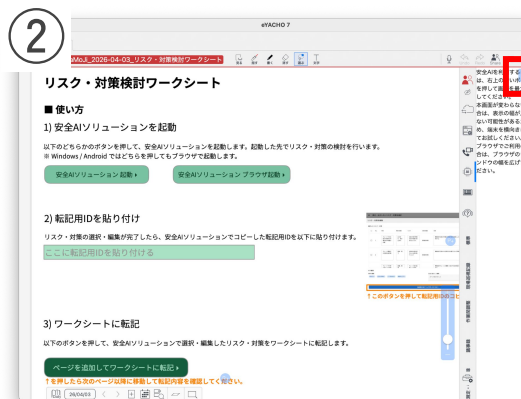
## 2. 安全AIソリューションの起動

安全AIソリューションの起動方法は、eYACHO/GEMBA Note アプリ内で起動(※)する方法と、ブラウザで起動する方法の2通りがあります。どちらの方法で起動しても機能は同じです。

### アプリ内で起動



1 [安全AIソリューション 起動]ボタンをタップします。

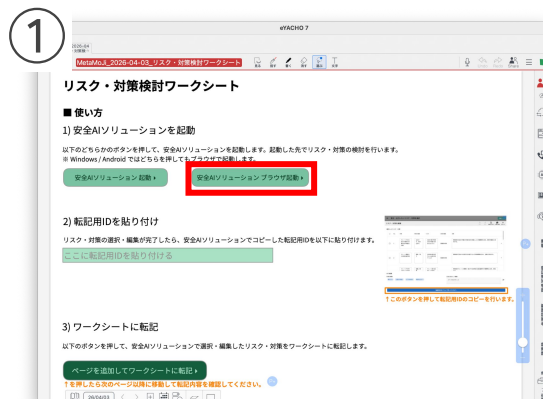


2 右側のビューが開きます。右上の矢印ボタンをタップして全画面表示にします。

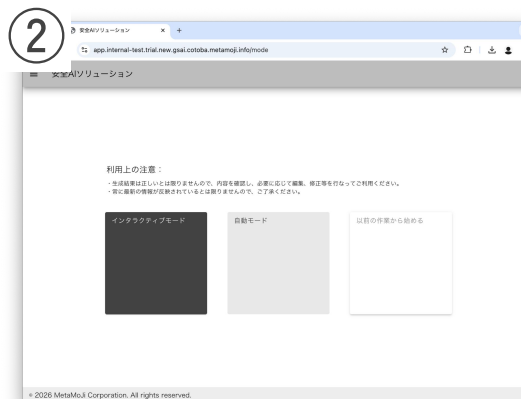


3 安全AIソリューション初期画面がアプリ内で表示されます。

### ブラウザで起動



1 [安全AIソリューション ブラウザ起動]ボタンをタップします。



2 安全AIソリューション初期画面がブラウザで表示されます。

※ Windows版/Android版では、安全AIソリューションはアプリ内で起動できません。  
「安全AIソリューション 起動」ボタン、「安全AIソリューション ブラウザ起動」ボタン、どちらを押してもブラウザで起動します。

### 3. 公開データの利用

# 3.1. インタラクティブモードとは

インタラクティブモードとは、ユーザーが段階的に情報を選択・編集しながら、安全AIソリューションによるリスク・対策を出力するためのモードです。

インタラクティブモードでは、以下の3ステップを経てリスク・対策を生成します。

## STEP 1 | 災害事例を選択

- ・作業内容等を入力し、その内容から過去の災害事例を検索します。
- ・リスク・対策の生成の参考にしたい災害事例を選択します。

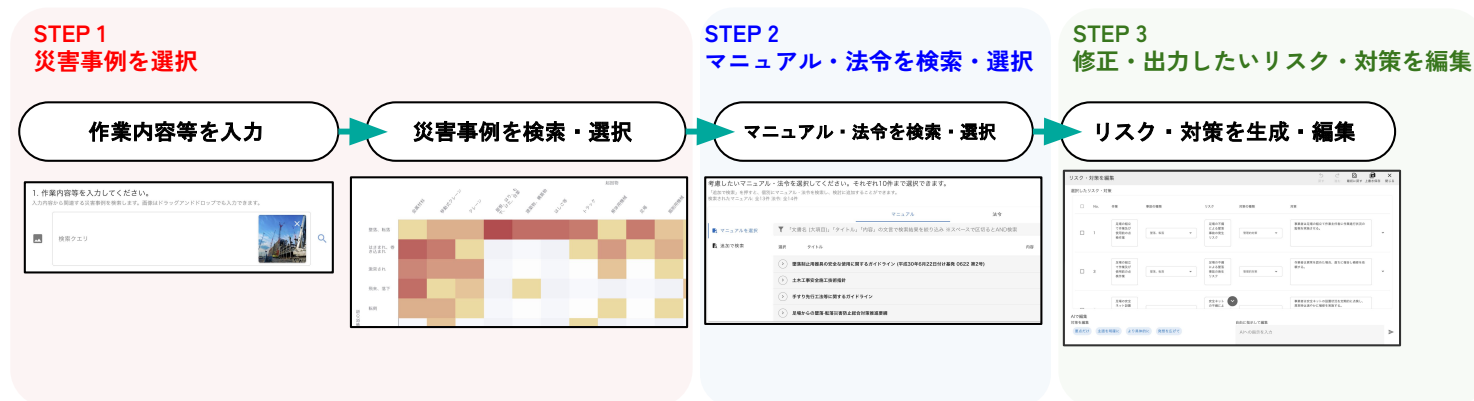
## STEP 2 | マニュアル・法令を検索・選択

- ・STEP 1 で選択した災害事例などに関連する、各種マニュアル・法令を検索します。
- ・リスク・対策の生成の参考にしたいマニュアル・法令を選択します。

## STEP 3 | 修正・出力したいリスク・対策を編集

- ・STEP 1 および STEP 2 の結果をもとに、リスク・対策の生成結果を示します。
- ・生成結果から、eYACHO/GEMBA Noteに転記したいリスク・対策を選択します。
- ・選択したリスク・対策の文言を必要に応じて修正を行い、転記を行います。

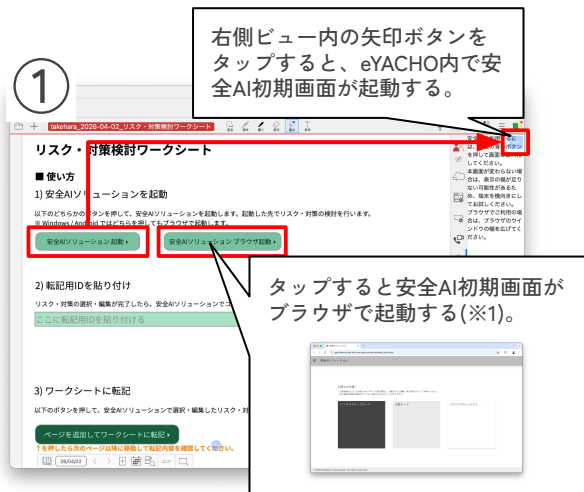
### ● インタラクティブモード（自分で参考情報を選んで生成）



## 3.2. インタラクティブモード操作例



災害事例を選択



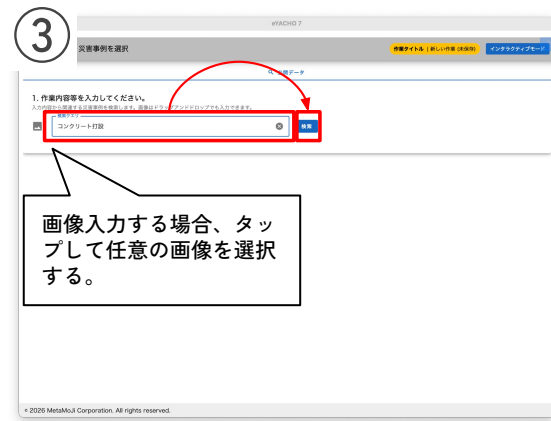
① 右側ビュー内の矢印ボタンをタップすると、eYACHO内で安全AI初期画面が起動する。

タップすると安全AI初期画面がブラウザで起動する(※1)。

[安全AIソリューション起動]、[安全AIソリューションブラウザ起動]ボタンのどちらかをタップします。  
(※1) Windows/Androidではどちらをタップしてもブラウザで起動します。どちらを起動しても機能は同じです。



[インタラクティブモード]ボタンをタップします。



③ 画像入力する場合、タップして任意の画像を選択する。

検索クエリフォームに、リスク・予測したい作業内容等を入力します。検索クエリフォームに入力後、検索ボタンをタップします。画像入力もできます。



④ ヒートマップ  
選択すると色が変化する  
選択前 選択後

検索が終わると、関連単語のボタン群とヒートマップが表示されます。  
ヒートマップはフィルタとして機能します。  
ヒートマップ上で選択した事故の型(縦軸)と起因物(横軸)に該当する災害事例が表示されます。



⑤ 事故の型・起因物単位で災害事例が表示される。

ヒートマップの右側には、事故の型・起因物単位で災害事例が表示されます。  
行右側の展開ボタンをタップすると、紐付く災害事例の詳細が表示されます。



⑥ 災害事例を選択するとボタンの色が変化する。  
選択前 選択後

リスク・対策予測に考慮したい災害事例を選択します。ここでは、5件の災害事例を選択しました。ボトムシートに選択した事例数が表示されます。

※ 本章では公開データを利用した手順を記載しています。自社データを利用する場合の操作については 4. 自社データの利用 を参照ください。

## 3.2. インタラクティブモード操作例

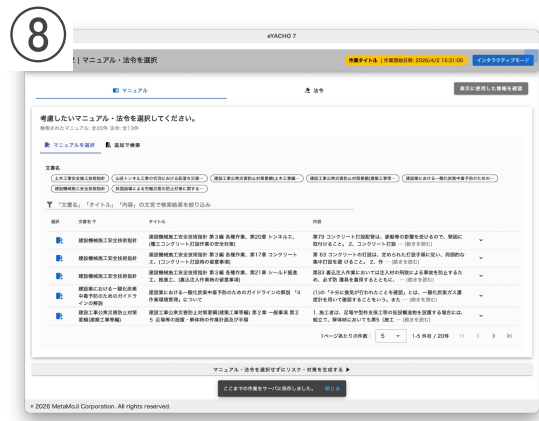


マニュアル・法令を検索・選択

マニュアル、法令の切り替えは各タブをタップする。



(STEP 1の続き) ボトムシート内の「選択した事例から関連するマニュアル・法令を検索する」ボタンをタップします。

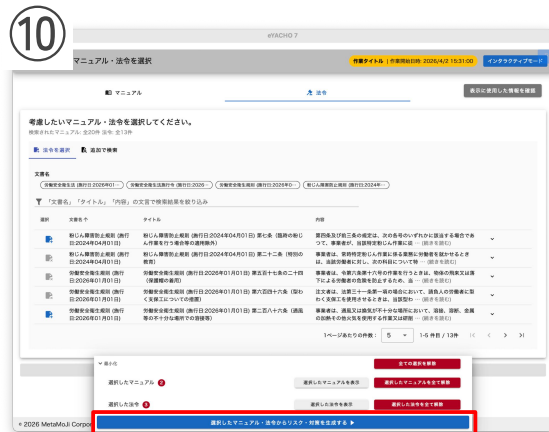


STEP 1で選択した災害事例をもとに、関連するマニュアル・法令の検索結果が表示されます。

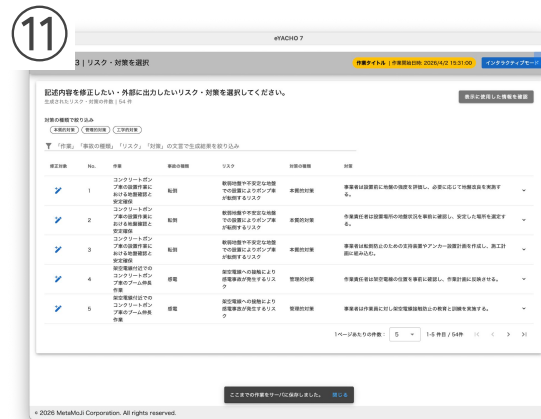


STEP 1の災害事例の選択(⑥)と同様、リスク・対策生成時に考慮させたいマニュアル・法令の選択ボタンをタップします。ボトムシートに選択した数が表示されます。

# 3.2. インタラクティブモード操作例



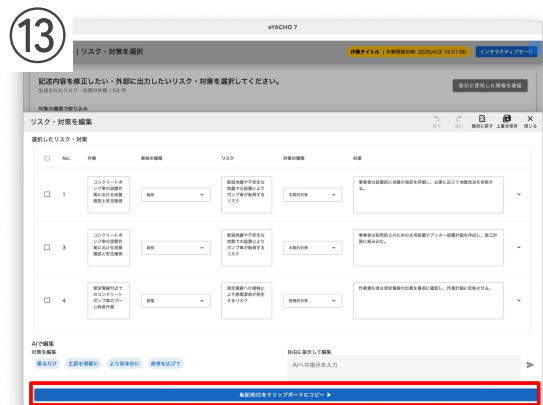
(STEP 2の続き)「選択したマニュアル・法令からリスク・対策を生成する」ボタンをタップします。



これまで選択した災害事例、マニュアル・法令をもとに、リスク・対策を生成した結果が表示されます。



eYACHO/GEMBA Noteに転記したい項目を選択し、「修正・転記」ボタンをタップします。



リスク・対策を編集画面が表示されます。生成されたリスク・対策を修正できます。「転記用IDをクリップボードにコピー」ボタンをタップします。



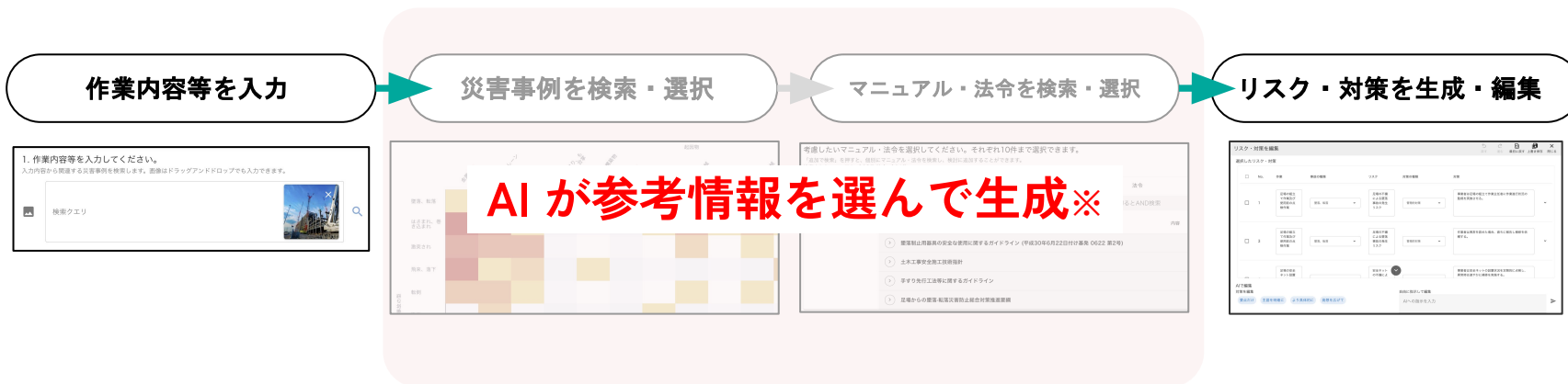
転記用IDがクリップボードにコピーされます。転記用IDをワークシートに貼り付けることでeYACHO/GEMBA Noteにリスク・対策を転記できます。ワークシート章を参照ください。

### 3.3. 自動モードとは

自動モードとは、AI が自動的に選択した災害事例やマニュアル・法令を基にリスク・対策を生成するモードです。

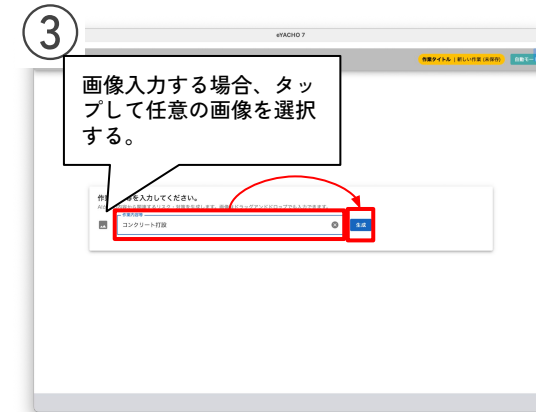
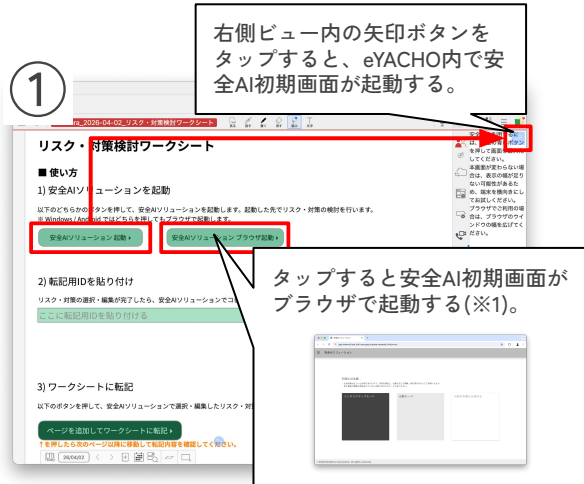
自動モードでは、作業内容等を入力するだけで、リスク・対策の生成が行われます。

● **自動モード（AIが参考情報を選んで生成）**



※ AIによって、参考情報を基にインタラクティブモードのSTEP1とSTEP2部分が自動生成されます。

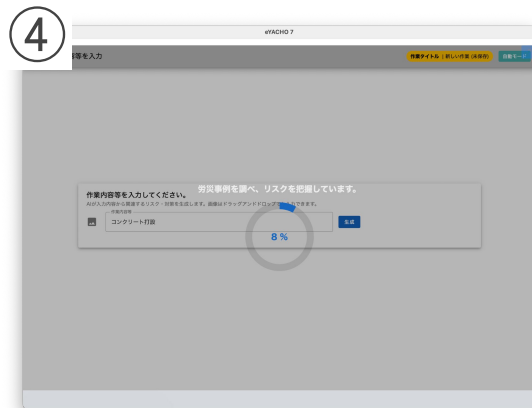
# 3.4. 自動モード操作例



[安全AIソリューション起動]、[安全AIソリューションブラウザ起動]ボタンのどちらかをタップします。  
 (※1) Windows/Androidではどちらをタップしてもブラウザ起動します。どちらを起動しても機能は同じです。

[自動モード]ボタンをタップします。

検索クエリフォームに、リスク・予測したい作業内容等を入力します。検索クエリフォームに入力後、検索ボタンをタップします。画像入力もできます。



自動で以下を行います。  
 ・労災事例を調べ、リスクを把握  
 ・検討するリスクを選択  
 ・関連するマニュアル・法令を取得、選択  
 ・リスク・対策を検討



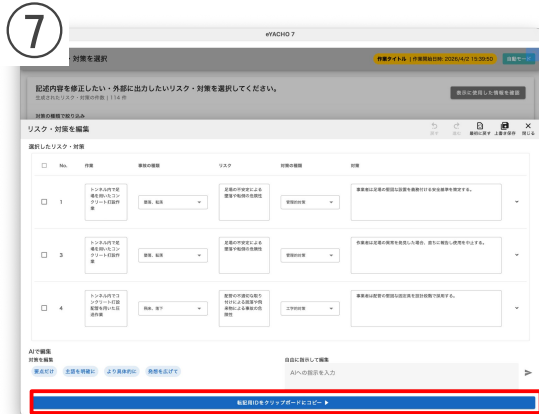
AIによるリスク・対策の生成結果が表示されます。



eYACHO/GEMBA Noteに転記したい項目を選択し、「修正・転記」ボタンをタップします。

※ 本章では公開データを利用した手順を記載しています。自社データを利用する場合の操作については 4. 自社データの利用 を参照ください。

# 3.4. 自動モード操作例



リスク・対策を編集画面が表示されます。  
 生成されたリスク・対策を修正できます。  
 「転記用IDをクリップボードにコピー」ボタンをタップします。



転記用IDがクリップボードにコピーされます。  
 転記用IDをワークシートに貼り付けることで  
 eYACHO/GEMBA Noteにリスク・対策を転記できます。  
 ワークシート章を参照ください。

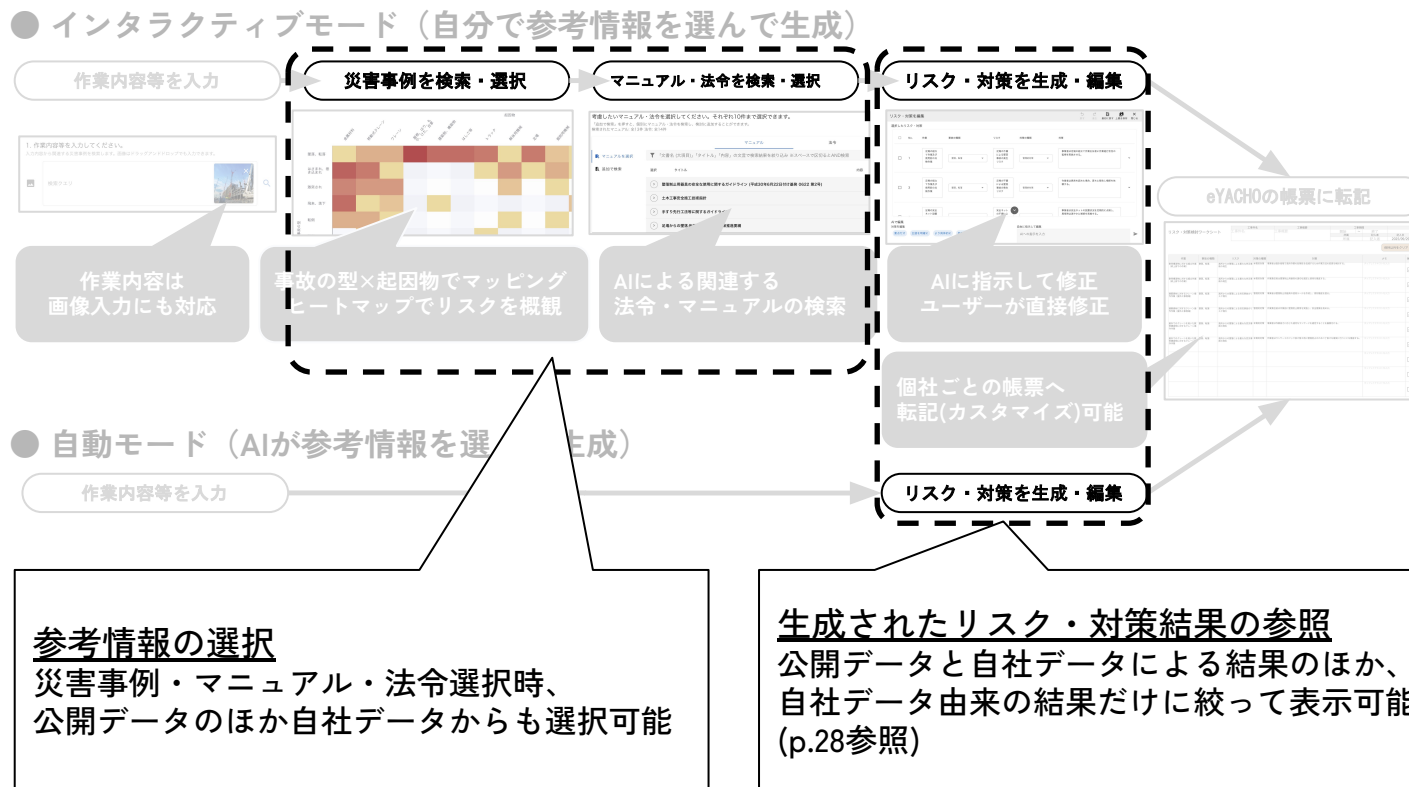
## 4. 自社データの利用

# 4.1. 自社データ利用の概要

安全AIソリューションでは、公開データに加え 自社データ(※) を利用して、リスク・対策を生成することができます。自社データを登録した場合、公開データと 自社データを併用して災害事例やマニュアル・法令を参照しリスク・対策を予測します。

本章では、自社データを利用する場合のインタラクティブモードおよび自動モードの操作手順例を記載しています。

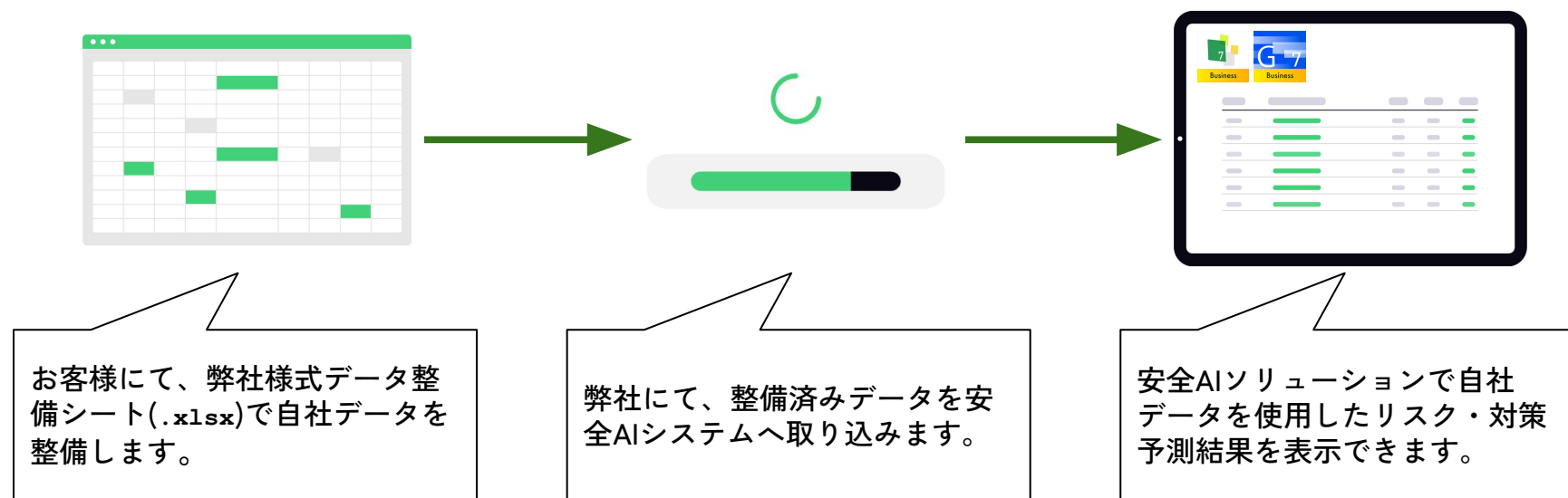
## 自社データ利用時の固有の機能



※ スタンダード版以上のご契約に加え、公開データ版・自社データ版のご利用にはそれぞれ別途のご契約が必要です。公開データのみを使用した操作手順は **3. 公開データの利用** を参照ください。

## 4.2. 自社データ整備の流れ

安全AIソリューションでは自社データ由来のリスク・対策を生成することができます。  
 自社データを利用するには事前のデータ整備(※)が必要です。



※ データ整備の手順詳細は別途「安全AIソリューションデータ整備マニュアル」を参照ください。

## 4.3. インタラクティブモードとは

※p.10 と同じ内容です。

インタラクティブモードとは、ユーザーが段階的に情報を選択・編集しながら、安全AIソリューションによるリスク・対策を出力するためのモードです。

インタラクティブモードでは、以下の3ステップを経てリスク・対策を生成します。

### STEP 1 | 災害事例を選択

- ・作業内容等を入力し、その内容から過去の災害事例を検索します。
- ・リスク・対策の生成の参考にしたい災害事例を選択します。

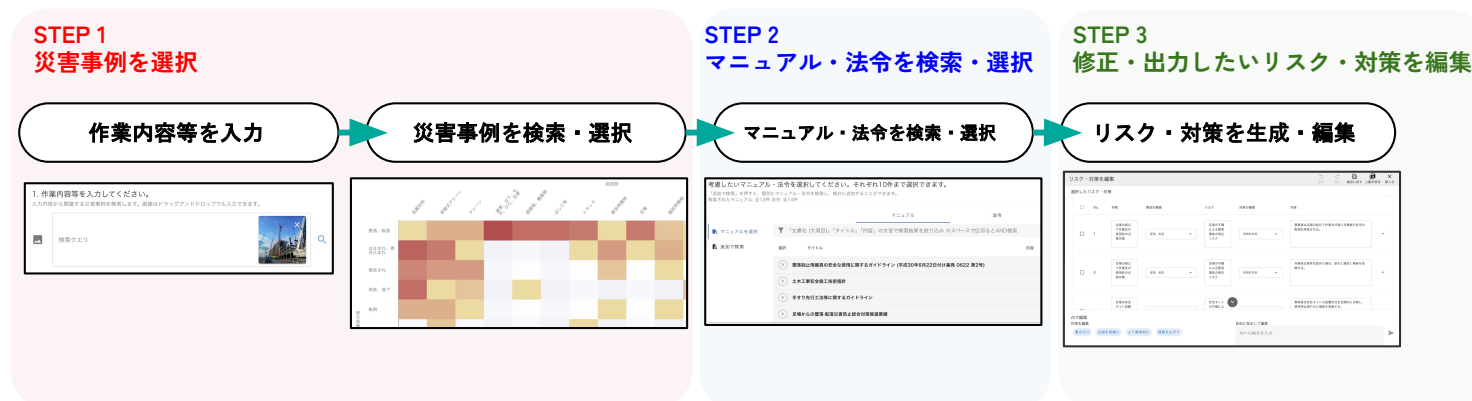
### STEP 2 | マニュアル・法令を検索・選択

- ・STEP 1 で選択した災害事例などに関連する、各種マニュアル・法令を検索します。
- ・リスク・対策の生成の参考にしたいマニュアル・法令を選択します。

### STEP 3 | 修正・出力したいリスク・対策を編集

- ・STEP 1 および STEP 2 の結果をもとに、リスク・対策の生成結果を示します。
- ・生成結果から、eYACHO/GEMBA Noteに転記したいリスク・対策を選択します。
- ・選択したリスク・対策の文言を必要に応じて修正を行い、転記を行います。

#### ● インタラクティブモード（自分で参考情報を選んで生成）



# 4.4. 自社データ利用時のインタラクティブモード操作例



**1**

右側ビュー内の矢印ボタンをタップすると、eYACHO内で安全AI初期画面が起動する。

タップすると安全AI初期画面がブラウザで起動する (※1)

[安全AIソリューション起動]、[安全AIソリューションブラウザで起動]ボタンのどちらかをタップします。どちらを起動しても機能は同じです。

**2**

利用上の注意

インタラクティブモード

自動モード

以前の作業から残る

[インタラクティブモード]ボタンをタップします。

**3**

STEP 2 災害事例を選択

1. 作業内容等を入力してください。

「自社データ」タブを選択する。  
※自社データのタブ名は任意の名称に変更可能。

リスク・対策予測に使用するデータセットのタブを選択します。ここでは、自社データのタブを選択します。公開データのタブを選択した場合は「公開データの利用 3.2. インタラクティブモード操作例」と同様の操作です。

**4**

フリーワードおよび画像検索可能

各条件は複数選択可能

自社データの検索画面に遷移します。災害事例の検索条件には、フリーワード・画像のほか、職種・作業の種類・起因物・事故の型の各条件の選択があります。各条件は複数選択可能です。検索条件を入力した後、検索ボタンをタップします。

**5**

関連単語のボタン群

検索条件に関連する災害事例

検索が終わると、検索条件の関連単語と、検索条件に関連する災害事例が表示されます。

**6**

ヒートマップ

災害事例一覧左側の矢印をタップすると、事故の型(縦軸)と起因物(横軸)によるヒートマップを表示できます。ヒートマップにより、入力した検索クエリ・画像に関連する災害事例を概観できます。

※ 本章では自社データを利用した手順例を記載しています。公開データのみを使用した操作手順は 3. 公開データの利用 を参照ください。

# 4.4. 自社データ利用時のインタラクティブモード操作例

STEP 1 → STEP 2 → STEP 3

災害事例を選択



ヒートマップはフィルタとして機能します。ヒートマップ上で選択した事故の型（縦軸）と起因物（横軸）に該当する災害事例が表示されます。



ヒートマップの右側には、事故の型・起因物単位で災害事例が表示されます。行右側の展開ボタンをタップすると、災害事例の詳細が表示されます。

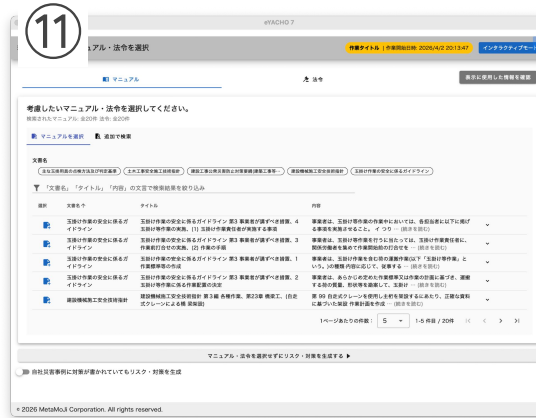


リスク・対策予測に考慮したい災害事例を選択します。ここでは、5件の災害事例を選択しました。ボトムシートに選択した事例数が表示されます。

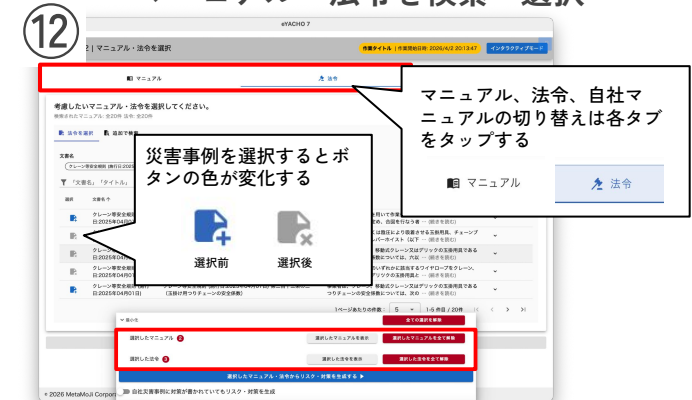
# 4.4. 自社データ利用時のインタラクティブモード操作例



(STEP 1の続き) ボトムシート内の「選択した事例から関連するマニュアル・法令を検索する」ボタンをタップします。



STEP 1で選択した災害事例をもとに、関連するマニュアル・法令の検索結果が表示されます。



STEP 1の災害事例の選択(⑨)と同様、リスク・対策生成時に考慮させたいマニュアル・法令・自社マニュアルの選択ボタンをタップします。ボトムシートに選択した数が表示されます。



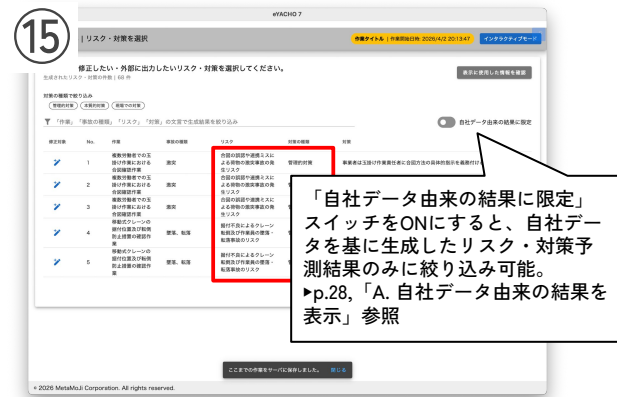
オンにして「選択したマニュアル・法令からリスク・対策を生成する」ボタンをタップすると、**自社災害事例に対してリスク・対策を生成**。  
 ▶p.29, 「B. 自社災害事例に対策が書かれていてもリスク・対策を生成」参照

- 「自社災害事例に対策が書かれていてもリスク・対策を生成」スイッチ
- オフの場合(標準)：対策結果 (p.24, STEP3 ⑭) には、自社データ整備で設定した「対策」の記載内容そのまま表示します。
  - オンの場合：対策結果 (p.24, STEP3 ⑭) には、自社災害事例に対してリスク・対策を生成・表示します。

# 4.4. 自社データ利用時のインタラクティブモード操作例



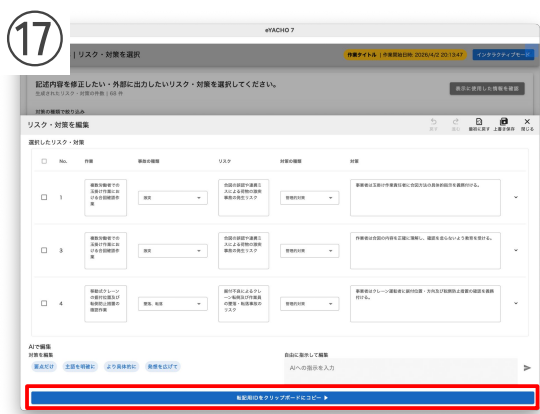
(STEP 2の続き) 「選択したマニュアル・法令からリスク・対策を生成する」ボタンをタップします。



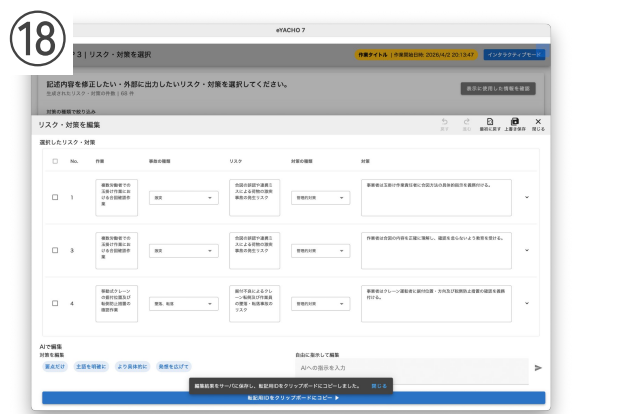
これまで選択した災害事例、マニュアル・法令をもとに生成された、リスク・対策の結果が表示されます。



eYACHO/GEMBA Noteに転記したい項目を選択し、「修正・転記」ボタンをタップします。



リスク・対策を編集画面が表示されます。生成されたリスク・対策を修正できます。「転記用IDをクリップボードにコピー」ボタンをタップします。



転記用IDがクリップボードにコピーされます。転記用IDをワークシートに貼り付けることでeYACHO/GEMBA Noteにリスク・対策を転記できます。ワークシート章を参照ください。

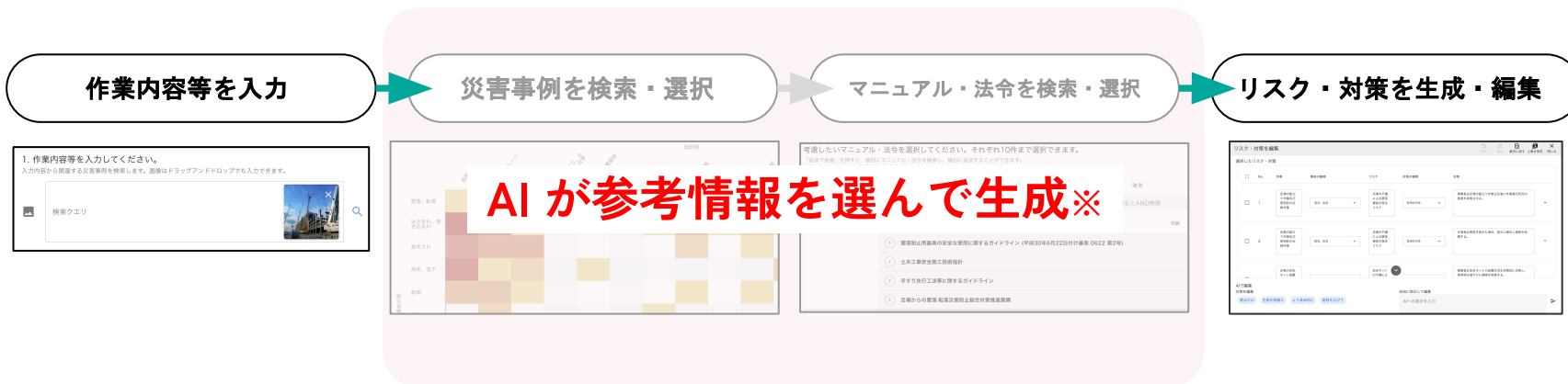
# 4.5. 自動モードとは

※p.14 と同じ内容です。

自動モードとは、AI が自動的に選択した災害事例やマニュアル・法令を基にリスク・対策を生成するモードです。

自動モードでは、作業内容等を入力するだけで、リスク・対策の生成が行われます。

## ● 自動モード（AIが参考情報を選んで生成）



※ AIによって、参考情報を基にインタラクティブモードの STEP1 と STEP2 部分が自動生成されます。

# 4.6. 自社データ利用時の自動モード操作例

①

右側ビュー内の矢印ボタンをタップすると、eYACHO内で安全AI初期画面が起動する。

1) 安全AIソリューションを起動

2) 転記用IDを貼り付け

3) ワークシートに転記

タップすると安全AI初期画面がブラウザで起動する (※1)

[安全AIソリューション起動]、[安全AIソリューションブラウザ起動]ボタンのどちらかをタップします。どちらを起動しても機能は同じです。

②

利用上の注意

インタラクティブモード

自動モード

以前の作業から始める

2020 MetaMoJi Corporation. All rights reserved.

[自動モード]ボタンをタップします。

③

フリーワードおよび画像検索可能

作業内容等を入力してください

オンにすると、自動モード内で自動的に選択される災害事例を、自社データに限定する。

オンにすると、自社災害事例に対してリスク・対策を生成する。

▶p.29, 「B. 自社災害事例に対策が書かれていてもリスク・対策を生成」参照

▶p.30, 「C. 災害事例を自社データに限定する」参照

検索クエリフォームに、リスク・予測したい作業内容等を入力します。検索クエリフォームに入力後、検索ボタンをタップします。画像入力もできます。

④

作業内容等を入力してください

16%

2020 MetaMoJi Corporation. All rights reserved.

- AIにより自動で以下を行います。
- ・ 労災事例を調べ、リスクを把握
  - ・ 検討するリスクを選択
  - ・ 関連するマニュアル・法令を取得、選択
  - ・ リスク・対策を検討

⑤

記述内容を修正しない・外部に出したいリスク・対策を選択してください

対策ID	No.	内容	リスク	対策の種類	備考
1	1	作業現場での安全確保	作業現場での安全確保	作業現場での安全確保	作業現場での安全確保
2	2	作業現場での安全確保	作業現場での安全確保	作業現場での安全確保	作業現場での安全確保
3	3	作業現場での安全確保	作業現場での安全確保	作業現場での安全確保	作業現場での安全確保
4	4	作業現場での安全確保	作業現場での安全確保	作業現場での安全確保	作業現場での安全確保
5	5	作業現場での安全確保	作業現場での安全確保	作業現場での安全確保	作業現場での安全確保

2020 MetaMoJi Corporation. All rights reserved.

AIによるリスク・対策の生成結果が表示されます。

⑥

リスク・対策行を選択すると、ボタンの色が変化する

「自社データ由来の結果に限定」スイッチをONにすると、自社データを基に生成したリスク・対策予測結果のみに絞り込み可能。

▶p.28, 「A. 自社データ由来の結果を表示」参照

選択前

選択後

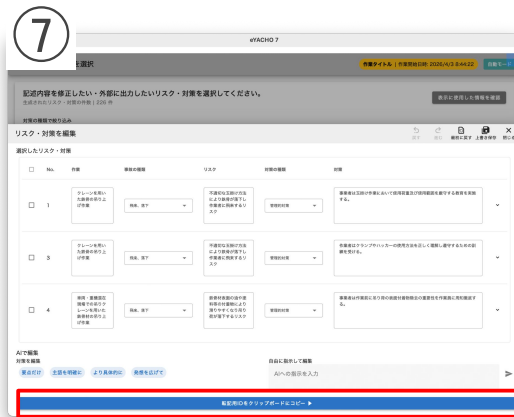
修正・転記

2020 MetaMoJi Corporation. All rights reserved.

eYACHO/GEMBA Noteに転記したい項目を選択し、「修正・転記」ボタンをタップします。

※ 本章では自社データを利用した手順例を記載しています。公開データのみを使用した操作手順は 3. 公開データの利用 を参照ください。

## 4.6. 自社データ利用時の自動モード操作例



リスク・対策を編集画面が表示されます。  
生成されたリスク・対策を修正できます。  
「転記用IDをクリップボードにコピー」ボタンをタップします。



転記用IDがクリップボードにコピーされます。  
転記用IDをワークシートに貼り付けることで  
eYACHO/GEMBA Noteにリスク・対策を転記できます。  
ワークシート章を参照ください。

# 4.7. 自社データ利用時の固有の機能

## A. 自社データ由来の結果を表示

「自社データ由来の結果に限定」スイッチは、インタラクティブモードのSTEP3において、リスク・対策予測結果を自社データ由来の結果のみに絞り込んで表示するための機能です。

「自社データ由来の結果に限定」スイッチ OFF



公開データと自社データ由来のリスク・対策予測結果が表示される。

「自社データ由来の結果に限定」スイッチ ON



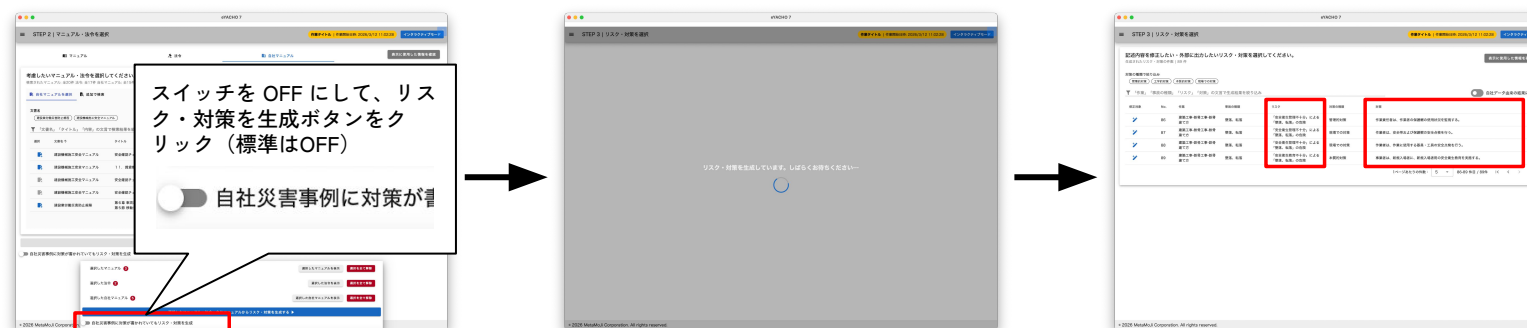
自社データ由来のリスク・対策予測結果のみが表示される。

# 4.7. 自社データ利用時の固有の機能

## B. 自社災害事例に対策が書かれていてもリスク・対策を生成

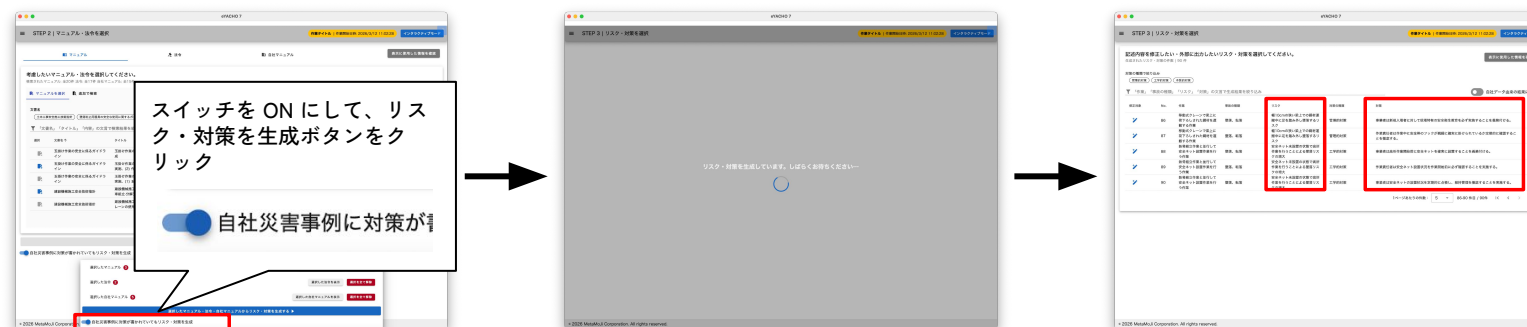
「自社災害事例に対策が書かれていてもリスク・対策を生成」スイッチは、自社災害事例のリスク・対策表示において、自社データ整備で登録した内容を表示するか、AIにより生成した結果を表示するかを設定する機能です。

### 「自社災害事例に対策が書かれていてもリスク・対策を生成」スイッチ OFF



自社災害事例については、自社データ整備で各事例に登録されているリスク・対策をそのまま表示します。新たにリスク・対策は生成しません。

### 「自社災害事例に対策が書かれていてもリスク・対策を生成」スイッチ ON



自社災害事例についても、AIがリスク・対策を生成します。対策結果には、AIが生成したリスク・対策を表示します。

# 4.7. 自社データ利用時の固有の機能

## C. 災害事例を自社データに限定する

「災害事例を自社データに限定する」スイッチは、自動モードにおいて自動的に選択される災害事例を、自社データに限定するための機能です。

### 「災害事例を自社データに限定する」スイッチ OFF

このスクリーンショットの連続は、「災害事例を自社データに限定する」スイッチがOFFの状態であることを示しています。最初の画面には、作業内容を入力するためのフィールドと「生成」ボタンがあります。2番目の画面は生成処理中のロード画面で、15%の進捗が示されています。3番目の画面は生成完了後の結果表示で、公開データと自社データの両方の災害事例がリストアップされています。

スイッチを OFF にして、作業内容を入力して生成ボタンをクリック（標準はOFF）

☑ 災害事例を自社データ

公開データと自社データの災害事例をもとにリスク・対策を生成します。

### 「災害事例を自社データに限定する」スイッチ ON

このスクリーンショットの連続は、「災害事例を自社データに限定する」スイッチがONの状態であることを示しています。最初の画面には、作業内容を入力するためのフィールドと「生成」ボタンがあります。2番目の画面は生成処理中のロード画面で、7%の進捗が示されています。3番目の画面は生成完了後の結果表示で、自社データのみの災害事例がリストアップされています。

スイッチを ON にして、作業内容を入力して生成ボタンをクリック

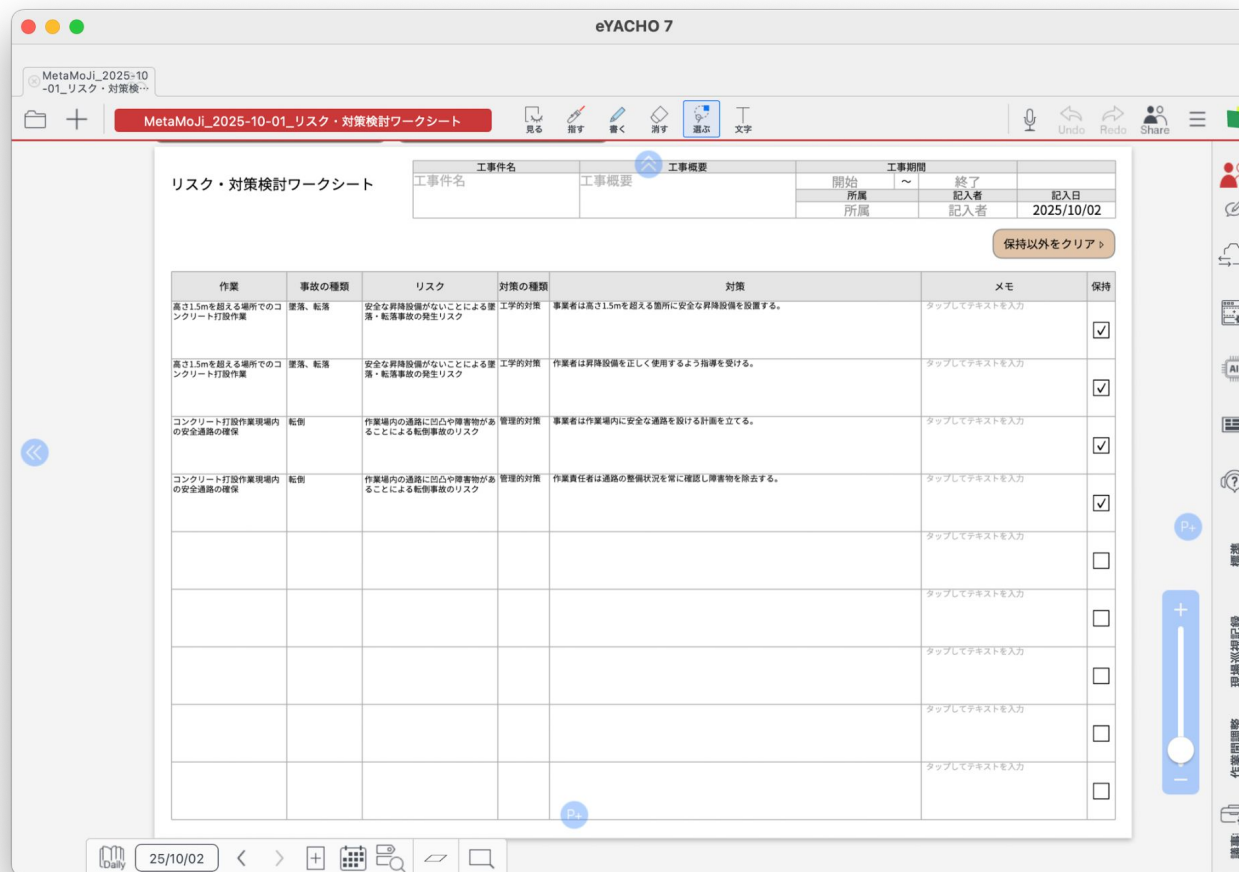
☑ 災害事例を自社データ

自社データの災害事例をもとにリスク・対策を生成します。

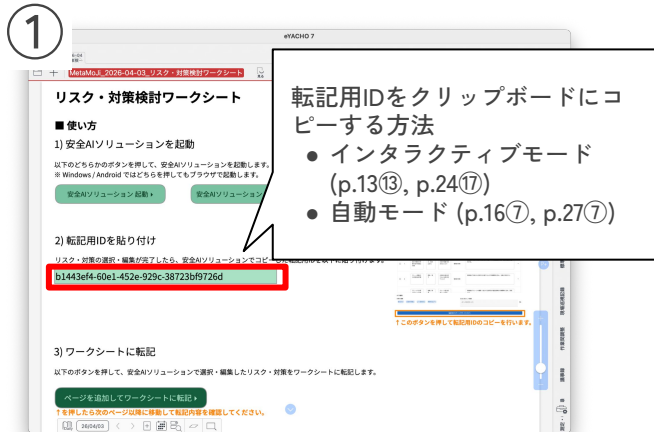
## 5. ワークシート

# 5.1. ワークシートとは

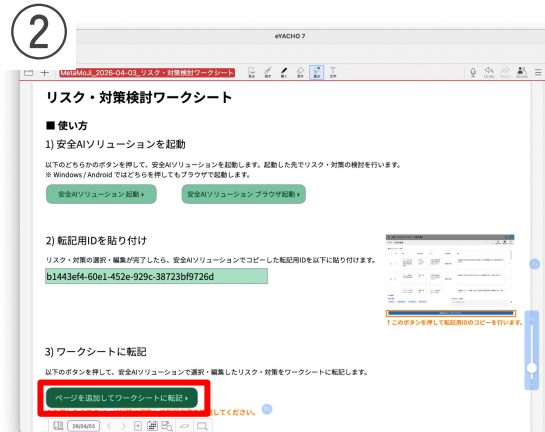
ワークシートとは、各モード (インタラクティブモード、自動モード) で生成し、選択したリスク・対策を転記するための eYACHO/GEMBA Note の専用帳票です。



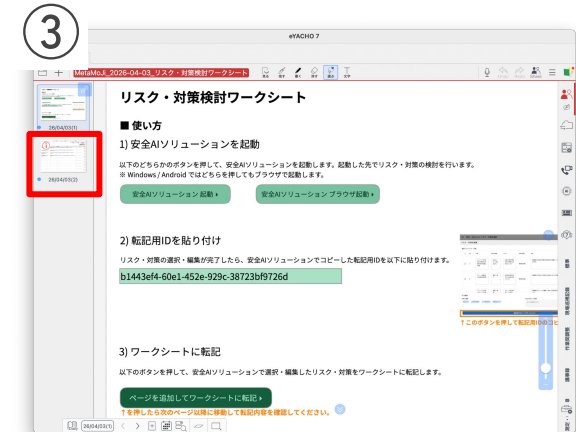
## 5.2. ワークシートへの転記方法



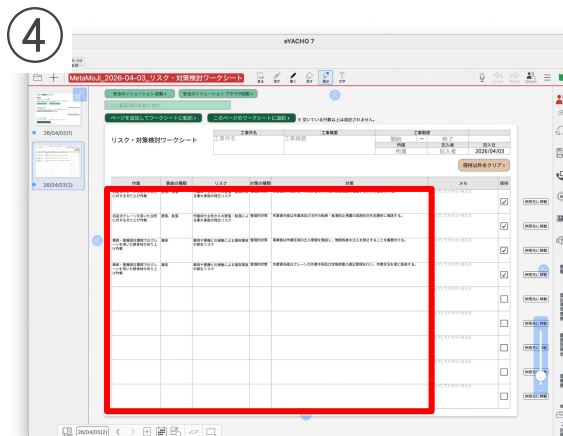
各モード（インタラクティブモード、自動モード）でクリップボードにコピーした転記用IDを貼り付けます。



[ページを追加してワークシートに転記]ボタンをタップすると、次ページにワークシートが新規作成されます。



新規作成されたワークシートをタップします。



転記用IDに紐づく「作業」、「事故の種類」、「リスク」、「対策の種類」、「対策」がワークシートに転記されています。

## 5.3. ワークシートの機能

### 安全AIソリューション関連ボタン群

- 「安全AIソリューション 起動」 ボタン
  - 安全AIソリューションをアプリ内で起動する場合に使用します。
- 「安全AIソリューション ブラウザ起動」 ボタン
  - 安全AIソリューションをブラウザで起動する場合に使用します。
- 「転記用 ID を貼り付け」 フィールド
  - クリップボードにコピーしたリスク・対策に紐づくIDを貼り付けます。
- 「ページを追加してワークシートに転記」 ボタン
  - 新規ワークシートに転記する場合に使用します。
- 「このページのワークシートに追記」 ボタン
  - 既存のワークシートの続きの行に追加して転記する場合に使用します。

### 工事情報入力フィールド

- 工事件名：テキストフィールド
- 工事概要：テキストフィールド
- 工事期間：日時入力フィールド
- 所属：1行テキストフィールド
- 記入者：1行テキストフィールド
- 記入日：日時入力フィールド

### 転記フィールド

各モード（インタラクティブモード、自動モード）で生成したリスク・対策から選択した行が転記されます。

### 保持チェックボックス

ワークシート転記後、自動的にチェックが入ります。チェックの入った行は、転記（追記）の際に上書きされず、「保持以外をクリア」ボタンを押しても値はクリアされません。

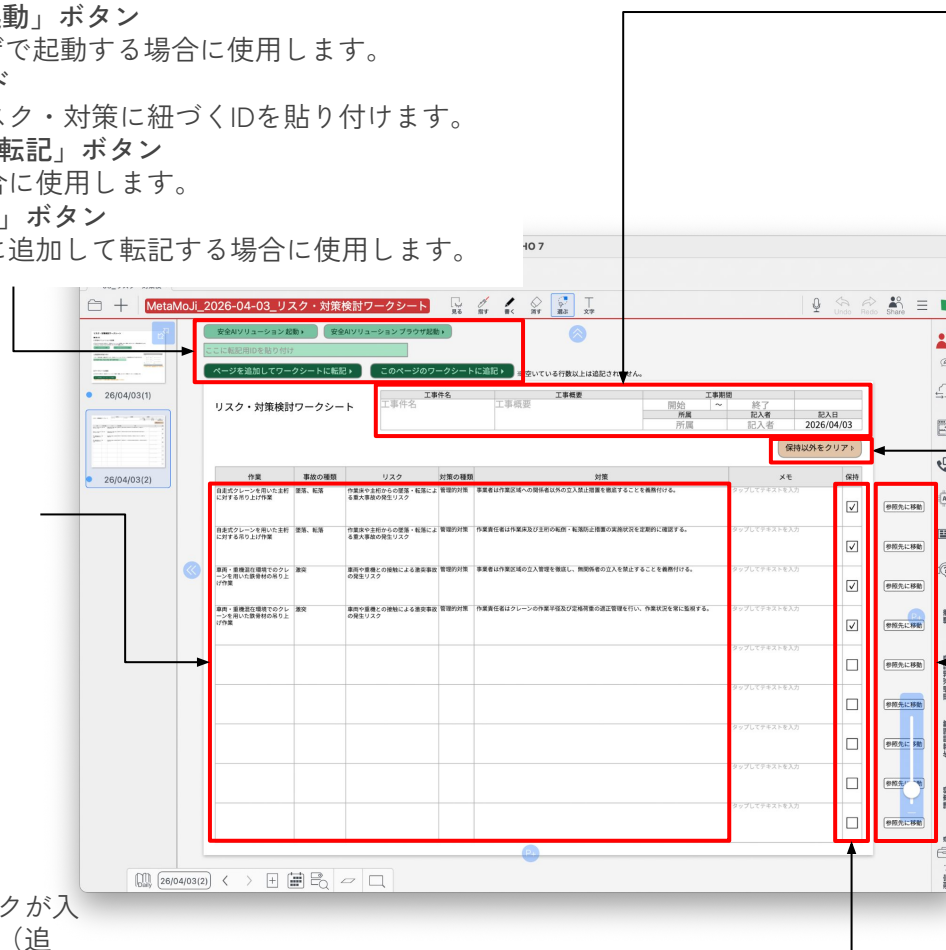
### 保持以外をクリアボタン

ワークシート転記後にタップすると、「保持」列にチェックが入っていない行はクリアされます。クリアされた行は自動的に詰められ、上に移動して表示されます。

### 参照先を開くボタン

ボタンを押すと、それぞれの行（リスク・対策）に関連するリンク先を参照します。

- 公開データ由来の場合
  - 事例・マニュアルをベースにしたリスク・対策 | 外部ブラウザで該当のページが開きます。
- 自社データ由来の場合
  - マニュアルをベースにしたリスク・対策 | eYACHO/GEMBA Note内で該当のPDFプレビューが開きます。



# 付録

# 動作環境・ご利用条件

安全AIソリューションは、以下の環境・条件でご利用いただけます。

- 対応アプリケーション
  - eYACHO for Business 7 以降 / GEMBA Note for Business 7 以降
- 対応OS
  - iOS(※1) / Windows(※2) / Android(※3)
- 必要バージョン
  - iOS(※1)版 / Windows(※2)版 / Android(※3)版 バージョン7.3.0以上
- ライセンス
  - スタンダード版以上
- ご利用条件 (※4)
  - お使いの法人に「安全AIソリューション」のサーバーライセンスが付与されていること
  - Web管理ツール利用機能の設定で、利用ユーザーの安全AIソリューションがONになっていること

※1 iOS は、Cisco の米国およびその他の国における商標または登録商標であり、Apple Inc. がライセンスに基づき使用しています。

※2 Windows は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

※3 Android は、Google LLC の商標です。

※4 詳細は安全AIソリューション公式ページを参照ください。

[https://product.metamoji.com/gemba/eyacho/topic/ai\\_solution.html](https://product.metamoji.com/gemba/eyacho/topic/ai_solution.html)

## 留意事項

本書には、安全AIソリューションの簡易操作手順が記載されています。詳細操作手順書をご希望の場合は、別途お問い合わせください。

ご利用にあたっては、以下の点にご注意ください。

- 「eYACHO for Business 7」「GEMBA Note for Business 7」バージョン7.3.0（2026/3/31現在）以上で動作確認済みです。  
※ 自社データをお使いの場合は、バージョン7.3.0(2026/3/31現在)以上のご利用が必須となります。
- eYACHO/GEMBA NoteアプリのインストールやアップデートはApp Store(※1)/Microsoft Store(※2)/Google Play(※3)から行ってください。アップデート後はバージョンを戻しません。
- 安全AIソリューションの仕様や機能は予告なく変更される場合があります。
- ご利用に伴う問題や損失について、当社は責任を負いかねます。

※1 App Store は、Apple Inc. のサービスマークです。

※2 Microsoft Store は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

※3 Google Play は、Google LLC の商標です。